

# 美しい森林づくり

## 地域に求められる「青森ヒバ林の復元」と「アカマツ防風林の再生」に向けて

下北森林管理署

下北森林管理署は、本州最北に位置する下北半島の国有林約8万7千ヘクタールを管轄しています。管内の森林は、スギ等の人工林、ブナやヒバ等の天然林から構成されています。

近年、戦後植栽された人工林が伐採時期を迎えてきている中、伐採や再生林に係る低コスト化が民有林・国有林の喫緊の課題となっています。また、日本三大美林の一つである青森ヒバは、その資源が減少してきていることから、スギ人工林の伐採後にヒバ林の復元を図る取組を県内他署等と連携し今年度から本格的にはじめています。

今回は、これらの課題をテーマにした取組と、昨年の台風10号の被害を受けた防災林造成の取組についてご紹介します。

### ○「青森ヒバ林復元及び低コスト一貫作業システム現地検討会」

平成29年10月19日、「青森ヒバ林復元及び低コスト一貫作業システム現地検討会」を下北流域森林林業活性化センターと共催で開催しました。

当日は、青森県、むつ市、森林組合、管内林業事業者及び県内他署等関係者の総勢60名の参加を得て、午前中は、むつ市大畑中央公民館において



ヒバ林復元プロジェクトの説明

「青森ヒバ林復元プロジェクト」の取組に係る説明を行いました。午後は、当署が低コスト化施策として進めている伐採から植栽までの一貫作業と併せて青森ヒバの復元を図る現地において、スギ立木の伐採から高性能林業機械による効率的な搬出まで一連の流れのデモンストレーションを見学し、伐採がヒバ稚幼樹に与える影響を確認するとともに、ヒバのコンテナ苗の植栽を参加者に体験していただきました。



高性能林業機械（プロセッサ）による造材作業

今回の検討会では、「ヒバ稚幼樹の保護を考慮した作業は、思った以上に大変だが、

安全を確保しつつ、今後も配慮して作業したい」という感想が事業者から出されたほか、他の参加者からは、「この取組はどのくらいのスパンで行うのか」、「植えた苗木は、何年で使えるようになるのか」などの質問が多数あり、今後の取組を進めていく上で有意義なものとなりました。

当地では、追跡調査を継続的にを行い、関係者に情報提供するなど取り組んでいきます。



参加者によるヒバコンテナ苗の植栽

### ○「城ヶ沢アカマツ防風保安林造成植樹」

昨年8月に発生し、各地に大きな被害をもたらした台風10号により、むつ市城ヶ沢地区（村端国有林19林班内）にある防風保安林も壊滅的な被害を受けました。

この防風林は、海から吹き付ける強風から田畑や住宅を守っているほか、海岸林として一般的なクロマツではなく、全国的にも珍しいアカマツ林からできており、歴史的にも数百年前に安東盛親が植栽したとの謂われがあるなど、幾多の変遷を経て長きにわたって地域を強風から守ってきたもので、地域の方々からも大切にされてきた場所です。このため、台風被害の発生後は、アカマツ防風林の再生に対する地元住民からの強い要望がありました。

平成29年10月31日、城ヶ沢町内会をはじめ、むつ市、下北地域県民局、東北森林管理局フォレストボランティア会員及び当署職員総勢35名参加のもと、「城ヶ沢アカマツ防風保安林造成植樹」を行いました。

当日は、前日の荒天とは一転して台風一過の晴天となり、「植樹日和」となりました。

参加者紹介と主催者挨拶のあと、参加者全員が防風林再生への願いを込めて、2年生のアカマツ309本を丸太静砂垣内に1本1本丁寧に植えました。

植栽後は、参加者代表で職員手作りの記念標柱を立て、全員で記念写真に収まり植樹を無事終えることができました。

この植樹では、報道各社も取材に訪れるなど、国土防災への関心の高さを伺うことができたところです。

今後も、「国民の森林」として、地元住民との繋がりを大切にしつつ、地域に貢献できる国有林としての取組を積極的に進めていきたいと考えています。



地元住民等によるアカマツの植樹